

開講期	2026年度後期			単位数	2.0単位
科目[授業]名	6113 日本美術史2(近代)			開講形態 (隔週 偶数 = 隔週2コマ)	週間授業
種別	なし			定員	
履修可能学年	全学年履修可	重複履修	×	全学開講	○
曜日時限	火曜2限				
教室	J204教室				
代表教員	君島 彩子				
担当教員	君島 彩子				
テーマと到達目標	本講義では、幕末から戦後にかけて日本において「美術」という概念と制度がいかに成立・変容したかを、社会状況、思想、宗教、メディアとの関係から考察する。到達目標は、①近代日本における美術概念形成の背景を理解すること、②写真・万国博覧会・戦争など外的要因が表現に与えた影響を分析できること、③宗教や神話が近代美術の中で再解釈された過程を説明できる力を養うことである。				
概要	本講義では、日本近代美術史の主要な転換点を15のトピックに分けて検討する。明治期に導入された「美術」概念と西洋的写実主義や写真が、従来の絵画・工芸・彫刻に与えた影響を起点に、廃仏毀釈後の仏像評価や岡倉天心による伝統再編、文化財意識の形成を考察する。さらに宗教的テーマの視覚化、個人表現の展開、戦時下の美術、戦後の再出発までを扱い、美術と社会・思想の関係を歴史的に理解する。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員(複数の教員が担当する場合のみ記載)	授業方式
第1回	はじめに — 「日本」「近代」「美術」とは何か				対面授業
第2回	写実の衝撃 — 洋風画から洋画へ				対面授業
第3回	視覚の革命 — 写真の誕生と広がり				対面授業
第4回	都市の記録と変容 — 明治の浮世絵				対面授業
第5回	国際舞台の日本美術 — 万国博覧会と輸出工芸				対面授業
第6回	伝統の再定義 — 岡倉天心とフェノロサ				対面授業
第7回	精神性と造形 — 仏教と近代絵画				対面授業
第8回	破壊からの再生 — 廃仏毀釈と仏像修復				対面授業
第9回	立体表現の近代化 — 仏像と西洋式モニュメント				対面授業
第10回	国家の物語 — 日本神話と近代美術				対面授業
第11回	異文化との対峙 — キリスト教と日本美術				対面授業
第12回	個の目覚め — 大正期の彫刻				対面授業
第13回	自我の噴出 — 大正期の絵画				対面授業
第14回	動員される美 — 戦争の時代美術				対面授業
第15回	日本美術の再出発 — 戦後美術のはじまり				対面授業
成績評価の基準	授業中におこなうテスト及び提出課題、授業態度から総合的に評価。				
履修にあたっての留意事項	東京国立博物館や国立近代美術館などの展示を各自で見学することが望ましい(詳しくは授業中に説明)				
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細					
【種別】人数制限(抽選)授業の優先条件					

## ◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用			
教科書	授業中に適宜指示または配布。	教科書(ISBN)	
参考文献	佐藤道信 『〈日本美術〉 誕生 ――近代日本の「ことば」と戦略』	参考文献(ISBN)	448051077X

## ◆合理的配慮

本学における修学支援基本方針について	<p>本学における修学支援基本方針は以下URLを確認してください  <a href="https://www.wako.ac.jp/campuslife/barrier-free.html">https://www.wako.ac.jp/campuslife/barrier-free.html</a>  合理的配慮を希望する場合は基本方針およびシラバスを熟読の上で申請すること</p>
--------------------	---